

# 漢文句法「使役」確認テスト（使・令・教・遣） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾

## 解答・解説

---

問1 しム（「使」は「(～を) しむ」と読む使役の助動詞。「むかフ」などではなくここでは使役の「しム」）。

問2 民（たみ）。送り仮名を含めると「民をして」。

問3 しム（「令」も使役を表し「しむ」と読む。「令す」と動詞に読む場合もあるが、句法としての使役は「しム」）。

問4 我（われ）。「我をして」で「私に～させる」の意。

問5 しム（「遣」も使役で「しむ」と読む。「つかハス（派遣する）」の意味から使役に転じたもの）。

問6 しム（「教」も使役で「しむ」と読む。「をしフ（教える）」の意味とは区別する）。

問7 人（ひと）。「人をして」で「人に～させる」の意。

問8 「命」のすぐ下に使役の対象「童子」が置かれ、その後に動詞「灌（そそグ）」が続いて「童子ヲシテ～灌ガシム」という形になっているため。「命ジテ～しム（命令して～させる）」の構造から使役と判断できる。

問9 「召」は本来「呼び寄せる・召し出す」の意で、ここでは「之を召して（呼び寄せて）入らしむ」のように、人を呼んで「入らせる」という使役の意味合いで用いられている。文脈によって使役を表す動詞の一例。

問10 ①・③・⑦・⑪（「使」が使役字として用いられている例文）。

問11 ②・⑥・⑫（「令」が用いられている例文）。

問12 ④・⑧（「遣」が用いられている例文）。

問13 「ヲシテ」（使役の対象には「をして」を付ける。これが使役の目印になる）。

問14 平仮名で書く（助動詞「しむ」は書き下しでは平仮名にするのが原則）。

問15 書き下し：民をして戦はしむ。／現代語訳：民を戦わせる（民に戦わせる）。

問16 子をして書を読ましむ。（現代語訳の参考：子に書物を読ませる）。

問17 将をして関を守らしむ。（参考：将軍に関所を守らせる）。

問18 人をして其の故を問はしむ。（参考：人にその理由を問わせる）。

問19 王は臣下に（君主を）諫めさせる。／王は臣下に諫めさせた。

問20 （親などが）子に書物を読ませる。

問21 （主君が）将軍に関所を守らせる。

**問22** 「Aヲシテ B (セ) シム」 (= AにBをさせる)。使役の対象Aに「ヲシテ」を付け、動詞Bを「～しむ」と読む。

**問23** 使役の対象 (させられる人) には送り仮名「をして」を付け、文末の動詞は未然形に助動詞「しむ」を付けて「～ (セ) しむ」と読む。例えば「使レ民戦。」は「民をして戦はしむ (民を戦わせる)」となる。